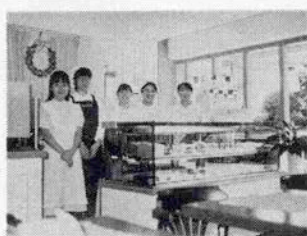


★六甲の散歩道で大人の味
のテイタイムを!

阪急六甲から②系統のバス道沿いに神戸らしいケーキ屋さん「アマンディーヌ」がある。女の子ばかり総勢16人がケーキ作りに奮闘しており、明るい笑顔で迎えてくれる。

人気のケーキは店名にもなっている「アマンディーヌ」(洋梨をくりぬいてダークチョコレートを詰め、アーモンドクリームで焼き上げている)とふわっとした舌ざわりが最高の「フロマージュ」(チーズケーキ)だ。

店内は静かで落ち着く。秋の一日を本でも読みながら



明るく元気な店員さんたち

らケーキとお茶をという人
にびったりの店だ。

■神戸市東灘区藤原北町2-2-12
AM10~PM8
861-0008 定休日無し

★コーヒーの相伴には

和菓子がびったりです

JR本山から山手幹線沿いに少し西に行った所にある和風喫茶「沙羅樹」はコンクリートの打ちっぱなしの外壁が印象的な店だ。店内は手すきの和紙のタペストリーとシルクデシンの花が見事に調和して美しい。



和菓子はお持ち帰りもあります

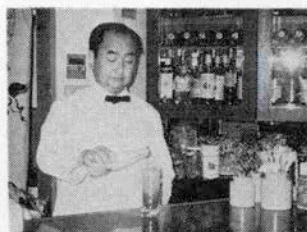
大阪の老舗高山堂の和菓子とオーナー自らが苦心して探した、和菓手に合うブレンドコーヒー・紅茶の組み合わせが新鮮だ。

その他、ロイヤルコペンハーゲンの器で梅茶とあんをのせた草だんごの日本茶セット、お抹茶セット、冬にはおぜんざい、おしるこも好評だ。

■神戸市東灘区岡本2-2-27
AM10:30~PM6(喫茶)
412-5152 火曜休

★知る人ぞ知る、本格的なカクテルバー

阪急三宮駅から北野坂を少し歩いて東に入ったところのコンクリートの打ちっぱなしのビルの3Fに「馬車屋」がある。オーナリーは銀座「馬車屋」で修行し、



カクテル「五月の風」をどうぞ

昨年11月に銀座の店名を継いで同店をオープンした。パーティー協会の役員であるオーナリーはパーティー歴34年、近畿大会では「東洋の花娘」というカクテルで優勝しており、腕は確かだ。オリジナルの「ガリデニアピーチ」、銀座馬車屋のオリジナルで緑茶を入

れた「五月の風」などカクテルの味は絶妙だ。

■神戸市中央区加納町4-9-29
パシフィックアトラス神戸ビル3F
PM5~翌AM2 日祝日休
331-6814

★フレッシュな季節の果物を

をケーキでどうぞ……

御影の山手幹線沿い南側にある「ダニエル」はオープンして半年、人気上昇中のケーキ屋さんだ。皮をむいた巨峰や洋梨まるごとのコ



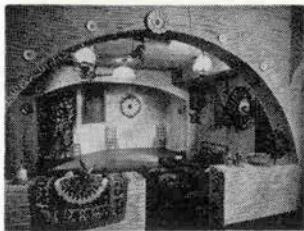
明るくてセンスのいい店内

ンポート、いちじくのタルト、洋梨の冷たいスフレ、桃のグラフィティー(フレッシュピーチとサワークリームのコンビ)など、どれも旬の果物をふんだんに使い、オーナリーの創造力とフランス料理のセンスが反映されている。人気のケーキは予約が必要ほどだ。注文を聞いてから作るミルフィーユも人気がある。

■神戸市東灘区御影町都家字大蔵43
メゾン・ダニエル
AM9:30~PM9 火曜休
843-5020

★南スペインの情熱を

感じたい方に
生田新道沿いにある「ロス・ヒターノス」(ジプシー達のこと)は関西で唯一つタブラオ・フラメンコが楽しめる店として知られている。タブラオとは「板張り、舞台」を表わすタブラード



南国の情緒が漂う店内です

という言葉からきたものでフラメンコを踊る舞台を持つ店のこと。ここでは、スペイン帰りのアーティスト達が毎夜、スペインの熱気とフラメンコの心意気をタブラオに響かせている。そんな彼らの情熱を浴びながらスペイン料理を存分に味わいたい。

■神戸市中央区下山手通3-15-19
PM6~AM0 水曜休

☎391-5431

★神戸の夜景を眼下に

本格フランス料理を

神戸港に瞬くハーバー

イト、雄大な六甲山の山並み、そして三宮周辺の街灯

りを眼下に遠くは紀淡海峡

落たバー。小さな石を積み

上げて造られた重厚な店構

えだが、一歩中に入ると、

高い天井と白い土壁、そし

て木造りのアンティークな

カウンターが醸し出す暖か

い雰囲気につつまれる。ク

ラシカルな中にも現代風に

アレンジされた店内に並ぶ

が見わたせる360度のパノラマ。「ラ・バーク」は、そんな神戸の夜景に包まれないながら本格フランス料理が味わえる贅沢なスペースだ。吟味された神戸肉、新鮮な魚介類、季節の野菜など旬の素材を活かした料理は絶品。ディナーのあとは静



神戸だからこんな店でディナーを

かにカクテルグラスを傾けたい。

■神戸市中央区浜辺通5-1-14
貿易センタービル24F AM11-30
PM9 平日はPM2~PM5は
中休み ☎251-1961 無休

★本場の韓国宮中料理なら
おまかせ

トリアウエストの一角にある韓国レストラン「百濟」は本格的な宮中料理が楽しめることで知られている。料理人はこの店のために韓国からやって来たというこ

とは勿論、ママさんも月に一度韓国へ行き、食材や家具、BGM用の音楽などす



小ぢんまりとした素敵なお店です

★K O B E

デビュースポット

スタンディングバー

「麻布バー」

東門筋のド真ん中にある「麻布バー」は、8月28日にオープンしたスタンディングスタイルの酒



イギリスによくあるビール主体のスタンディングバブとは違い、ウイスキーとカクテルが中心。約120種類のボトルが揃えられているので、たいていのお酒が楽しめる。



調度品やグラスは、どれもひとつひとつにこだわりを感じられるものばかり。オープンな感覚で飲める店ではあるが、少し気取って行きたい。
■神戸市中央区中山手通1-4-11 PM5~翌AM2(平日)
PM5~AM0(日曜日)
☎322-1189 定休日なし

べて現地で買付けてくる程の徹底ぶり。

「色々なものがあるということを日本の方知っていただきたい」とママさんが語るように、珍しいものを数多く出してくれるので、グلمانには見逃せない。

■神戸市中央区下山手通3-1-9
コスモビル1F PM12~PM3
PM5~PM10 水曜休
☎392-5458

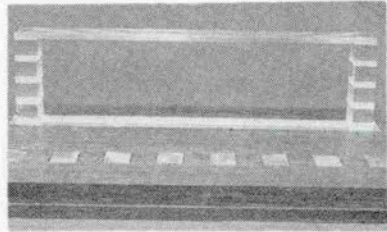
ポケット ジャーナル



★友好モニュメントの

名付け親になりませんが、明石海峡大橋が開通する1998年に完成予定の日仏友好モニュメント（県立淡路島公園に建設）の愛称を募集している。

同モニュメントはフランス革命200周年を記念し日仏両国で計画が進められており、現在仏側が基本設計に取り組んでいる。
長さ305m、幅30m、厚さ6mの青銅の碑盤を、幅12m、奥行き18m、ガラス製の4本の柱が支える構造で高さは80m。



親しまれる愛称をつけて下さい

最優秀賞1点、佳作9点が来年2月に予定されている日仏友好国際シンポジウムで発表され、最優秀入賞者はフランス1週間の旅が贈られる。

応募は愛称と簡単な説明、住所、氏名、性別、年齢、職業、電話番号を記入の上、ハガキでご応募下さい。締切りは11月30日（当日消印有効）。
〒650神戸市中央区下山手通5-10-1日仏友好のモニュメント日本委員会「愛称募集」係まで。☎341-7969

★今秋の神戸は

文化イベント盛り沢山

秋の芸術祭の一環として神戸市の各区で文化イベントコレクションが繰り広げられる。

○東灘・渡辺淳一さんの講演「私と小説」（10月28日 灘神戸生協生文センター）
○灘・神戸室内合奏団の演奏会（11月10日六甲道勤労

市民センター）

○中央・ケントギルバートさんの講演「私のみた日本文化」（10月27日生田文化会館）

○中央・劇団神戸の公演「不忠臣蔵」（11月11日葦合文化センター）

○兵庫・淀川長治さんの講演「私のオモシロ映画人生」と「第三の男」上映（11月10日兵庫勤労市民センター）

○北・林光さんのソングとオペラ（11月23日親和女子大学講堂）



淀川長治さんも神戸

○須磨・佐久間由美子さんのフルートリサイタル（10月20日北須磨文化センター）

○須磨・親世流の能と大蔵流の狂言（11月24日須磨区民センター）

○西・神谷郁代さんのピアノリサイタル（10月27日西区民センター）

尚、長田（民謡まつり）と垂水（辻久子さんのバイオリンリサイタル）は9月に行われ、いずれも大盛況だった。

身近で芸術に親しむチャ

★誕生日ありがとう運動



敬老の日
今日一日どうにか
ひとさまの手を借りて
生きられました
わたくしは
このような身になりました
なっただけではありません
夫に先立たれ
子供もなくて
いつの間にか耳は遠く
目は薄くなってしまいました
役所からヘルパーさんに
来てもらい
日日の暮らしたくことに
感謝しなければなりません
けれどそのような身に
置かれているわたしが
哀れなです

九月十五日は敬老の日です。老後を養う人からの詩をご紹介しました。

私達は障害のある人をともしれば違った目で見る場合があります生まれつき体の不自由な人は、高齢のため外出や家事に、不自由になるのが人生です。

オリンピックに入賞するような強健な人でも、老後は介護を必要とする時少なくありません。障害はすべての人にとって、ひとつとではないのです。

障害のある人もない人も、すべての人が一緒に生きてゆこうというのが、私達の願いです。（K）

誕生日ありがとう運動本部

51神戸市中央区御幸通8-1-16

神戸国際会館1階郵便局の隣

☎078-1231-1211

ンスだけにお好きなイペン
トにどうぞ。

■問合せ 神戸市民文化振興財団
☎33213320

★須磨の風が舞う彫刻展

「SUMA」ビエンナーレとして親しまれている神戸須磨離宮公園現代彫刻展が、今年も離宮公園で開催される。

第12回を迎えた今回は「須磨の風」をテーマに、全国より応募のあった372点の中から公募入選作品10点と招待作品5点の計15点が同公園内の庭園に展示される。

会期は10月1日から11月10日まで。

★手塚治虫の世界を

神戸で体験できる

「鉄腕アトム」「ジャングル大帝」「火の鳥」等、日本の漫画界をリードしてきた



天才と呼ぶにふさわしい



幼き日のアイドルアトム

故手塚治虫さんの作品を集めた「手塚治虫展」が神戸にやってくる。

10月6日～11月12日まで市立博物館で開催される今回の展覧会の構成は、(1)全作品の中から年代順に5つのカテゴリーに分け、約1500ページの原画を中心に展示。(2)初期作品の赤本等、関係資料の展示。ユニバーシアードやフェスピックのマスケットマーク原画は神戸っ子には嬉しいところ。(3)テレビ45台、ビデオデッキ14台で実験アニメ、手塚アニメ名場面集の上演

(4)会期中の3日祝日に限り、12時と14時30分の2回に亘って手塚治虫スペシャルアニメ上映会が行われる。同展は7月に東京を皮切りに全国4ヶ所で開催され、神戸は3番目となる。

幼い頃、誰もが胸をときめかせた手塚ファンタジーの世界にタイムスリップしてみましよう。

★やっぱり外車は魅力

今月号の本誌裏表紙を飾るひめがくキャンパスランドで、9月15・16日の両日にわたって外車ショーが開かれ多くのカーマニアを喜ばせた。

出展車はフェラーリ412(88年)を始め、サーブ、シトロエン、プジョー、ベン

ツ、ロールスロイス、ジャガー、ポルシェ、オペル、BMW、ボルボで新車が大半を占めた。

初秋の連休のひとときを福崎の自然と外車で堪能でき、お客さんにも大好評のショーだった。



目の保養にもなりました

★ポर्टアイランドで

出会いのチャンス

社会人を対象にした男女の出会いのパーティが、ポर्टアイランドで10月に3回開催される。

10月14日13時～、28日12時30分～いずれもキーノーツ(ポर्टピアホテル南館3F)10月21日13時～CFジャンクションにて。

料金は男女共7000円

(ドリンク・食事代含む)

■このチケットを各日一組ずつ同席のペアにプレゼント。〒556大阪府浪速区大田2-8-32ビジュアル大田81005 U-Aカンパニーまで集書でお申し込み下さい。

★元氣な女性求ム!ふれ愛
ファーマーズ交流会
10月25～28日、3泊4日

図書ガイド



夏の台地に
上田三洋子

「私が造っていたものは一体何だったのか」

戦時中、鈴鹿海軍工廠に動員されて戦機機に搭載する武器を造っていた(と信じていた)作者が夏材を重ねてその真相に迫った「夏の台地」に他、神戸文学賞を受賞した「風車の音はいらぬ」などあり余る作者の感性を余す所なく示す5篇を収める短篇小説集である。(松香堂刊 2000円)

【三分間説法】

しあわせ眼鏡
小池 義人



現在大山須磨寺管長を務める著者が5年前から始めたテレフォンサービス「須磨寺テレホン法話」を一冊にまとめたのが本書。月交りて流された有難い法話の数々をこうしてまとめて机上に置けるのは更に有難い。

この法話は現在も続いており、電話番号は以下の通り。
☎078・732・5800
(宋書房刊 1030円)



死の周辺
山川 修平

この本には「死」にまつわる短篇小説が7篇収められている。当然のように暗い雰囲気があるが、そこそこに読者を引きつける工夫がなされている。例えば「コスモスの血」では「川流れ」という、人を得体の知れない不安に誘うような言葉を使った「死」の捉え方を感じて欲しい。
(小説社刊 1800円)

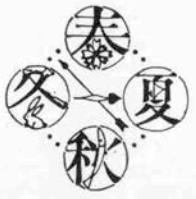
でファームステイが和歌山県で行われる。農村の青年との交流を推進し主体的な農業青年の育成を図るのを目的とする。県下の農家にてファームステイを経験する他、参加者全員での交歓会や高野山でのオリエンテeringなど、自然を肌で感じることが出来る内容となっている。

参加費は男子7000円(県下の人のみ)女子2000円(全国公募)となっている。

■お問い合わせ、お申し込みは和歌山県庁農業振興課
電話07343214111

★コスモス文学新人賞の作品募集

計時花



市民が育てたタウン誌

さる九月十五日(土)から十七日(月)まで、九州・久留米で、第十三回全国タウン誌会議が行われた。参加社五十八社、百二十名が参加した。同時に全国タウン誌展が開催され参加誌は百六十八誌

コスモス文学の会(長崎市・広岡航主室)では、新人の創作活動啓蒙のため、次の要項で作品を全国公募している。

- 作品部門と原稿枚数
- 掌編小説(10~30枚) 短編小説(31~50枚) 中編小説(51~150枚) 長編小説(151枚以上) 随筆(5~10枚) ノンフィクション(30枚以上) 童話(5~30枚) 児童小説(30枚以上) 現代詩(20行以上) 文芸評論(30枚以上) 戯曲(30枚以上)
- 応募資格
- 不問・全国公募
- 応募規定

● 1枚目を作品外別紙として
新人賞応募と朱書。部門、本名、筆名、年齢、郵便番号、住所、略歴、職業を明記する。

- 締切
- 平成3年1月30日(当日消印有効)
- 賞品
- 各部門とも入賞1~2編に賞状と額縁。
- 発表
- 平成3年3月10日。各部門とも入賞、入選、佳作者に直接通知。
- 応募先
- 〒852長崎市金堀町35-11
コスモス文学の会
電話09581611878

もあつた。全国タウン誌会議としては最大規模となった。しかも、分科会には①編集出版②営業③イベント④周辺事業など直接日々の運営に役立つ意見が交換された。開会にあたって、共催の立場にある日本タウン誌協会の長、角田吉博氏が挨拶。「日本全国で現在五百誌ほどのタウン誌があるが、新聞などのマスコミと歴然と差異があるのは、タウン誌こそ、市民、民衆の側から生まれた媒体であることである。」

と市民が育んだ媒体であることを強調、共感を呼んだ。いづれにしても、この三日間で討議されたノウハウはタウン誌運営の力になったことは間違いない。毎回参加人数が増加するのはその証左である。日本タウン誌協会も達成三年目になる、いよいよ委員会制度による体制の強化が検討され実施に踏み切ることが報告された。一九九一年は月刊はずけつと(千葉)が主催する。

△Y△

● KOBE POST

★MBS毎日放送(斎藤守慶社長)の新社屋が、大阪梅田・藤屋町に完成し、9月1日より放送を開始しました。新社屋所在地〒530-04 大阪市北区茶屋町17-1 電話06-359-11123

★株式会社ナッティクラブ(星野勝彦社長)が居留地の一角に移転しました。新住所は〒650神戸市中央区江戸町94-2 兵庫クレジッタビル3F。尚書331-15640 FAX331-15230は従来通り。

★「日刊シューズ界」を発行している株式会社シューズマガジン社(藤井明社長)も事務所を移転。〒650神戸市中央区栄町通4-11-4 新和東2ビル書362-11850 FAX362-11851

★「京都に出かけた時に、気軽に立ち寄れる玄照堂のお店を作ってほしい」という要望に応えて、吉兆藍木綿製造・販売の株式会社笹倉玄照堂(笹倉玄照社長)が本社を9月8日にオープン。清水寺に近く東山通に面した場所があり、連日賑わっているそう。〒505京都市東山区東山五条坂上ル遊行前町電話075-55110057 FAX075-5511005

★NHK神戸放送局から下関支局に移られた藤井康人さん。自宅は〒571下関市緑木町3-2-17 1301 電話0832-533-6823

★本誌連載中のちよこたんたんずんて……でお馴染みの姫路学院女子短大の当津謙教授の自宅が町名変更になりました。〒573明石市朝霧山手町24-1 電話917-10887

◎訂正とお詫び 本誌9月号の神戸商科大学を名刺博で兵庫トヨタ自動車社社長を瀬川博司さんに、145ページの写真真展主催はサンユーフオトリエティブに、44ページ下段の日ソ友好兵庫県議員連盟訪ソ団团长は末松三秀さんに各々訂正しお詫び申し上げます。

K.F.S. NEWS 161

真赤な夕日を眺めながらサマーンスリー

★KFSサマーンスリー

8月26日、18時の集合でしたが、日曜日ということもあってか、みんな早い時間に海の家「レインボー」へと集まりました。

参加者それぞれに思い出多き須磨海水浴場、お盆も過ぎ、まばらな人影の海辺を想像していた我々にはびっしりと砂浜を埋めつくしたファッションブルな若人にまぎびっくり。又、しゃれたビーチハウスはロックのリズムが流れ広々とした白い砂浜と心地よい風に懐かしさを感じ、いきかう船に過ぎ去りし日々の新しい出をそれぞれの胸にいだき、真赤な夕日を眺めていました。日暮れと共に始まった会食は「レインボー」のおかみさんの大番ふるまいで3隻の大舟盛料理。タイ、マグロ、ハマチ、イカ、タカウニ、アワビ、貝柱ひらめと、昼にとれたばかりのタコのぶつ切り、それにオデン、神戸肉のすき焼きとみんな満腹で、やけにお腹が目立つ写真撮影となりました。

食後は童心にかえり子供達と花火に興じて、夜の更けるのを惜しみつつ、家路につきました。

(荒津正美)



三木セブンハンドレッド倶楽部にて

★KFSゴルフ同好会

KFSゴルフ同好会が8月10日(金)うす曇りの三木セブンハンドレッド倶楽部(三木市志染町)に於いて、荒津正美氏が担当幹事で開催されました。参加メンバーは昨年15周年記念イベントの進行と司会を頼みゴルフもご一緒しようと約束しておりました。ノコちゃんこと小山乃里子さんをゲストに夏真盛りの日中をさけてナイターゴルフをということで午前4時スタート。第1組は柿本、加納、松谷、木庭2組は荒津、大内、北原、小山。3組は田中、福井、荒津夫人、中島以上12名。最初のハーフ私共、年寄に気を使って下さったのが太陽もひかえめですこぶる快調。休息では皆さん充分満足きった顔でさぞや素晴らしい成績であ

ったのではと思われました。いよいよ後半のハーフはナイターライトにグリーン芝生がはえて美しい景色。バックミュージックも入り、最高のナイター気分を十分に満喫して、全員ラウンド終了したのが9時過ぎ。ひと風呂浴びてスッキリして表彰式は会食をした後、とり行いました。

優勝は田中新会長。2位は木庭氏。3位はゲストの小山乃里子さん。スコアは発表する程の成績ではないのでとのこと。

各自が景品を持ち寄り、たくさんの景品が集まり、良いお土産もでき、楽しい一日でありました。(中島)

●10月マンスリーサロンのお知らせ ファッション公開講座

とき 10月30日(火) 18:30~20:30
場所 関西信用金庫本店8F “かんしんホール”

講師 立亀長三氏
会費 2500円

恒例のファッション公開講座。ヨーロッパ、アメリカの最新ファッション情報をお話ししていただきます。

毎年2回海外で取材をされるという立亀氏の生の情報は、とてもフレッシュでしょう。ご期待下さい。

神戸一じゅたーる



第16回

高田屋太鼓

有井 基

—Hazime Ariti—

△フリーライター▽

カメラ・池田 年夫

淡路島に、和太鼓の集団があったとは…。

その名も「高田屋太鼓研究会」。去年の二月一日創立だから、まだ一年八カ月に満たない。にもかかわらず、去る七月に兵庫県・ハバロフスク友好使節団に加わり訪ソ。堂々の演奏に、ソ連の人たちは、アンコールをせがみ続けたという。

「そら、すごかったよ。ド迫力やったわ」。同じく大和楽の一員として参加した本誌「神戸っ子」編集長・小泉美喜子さんの「肩入れ」も尋常ではない。これは訪ねねばなるまい。ましてや高田屋嘉兵衛の生地、津名郡五色町は、神戸と縁続きなのだから。

ご存じだろうか。神戸市兵庫区の入江小学校正門わきに「高田屋嘉兵衛顕彰碑」が建っていることを。江戸末期、北海道を中心に壮大な海洋ドラマを演じた兵庫の豪商・嘉兵衛が、この辺りに本店を構えていた、というのである。

生まれは現在の五色町都志（つし）。役場の裏手に当たる生家跡には「高田屋嘉兵衛翁記念館」が建てられている。いまも「町魚」とするサワラ漁を売りものにする半漁半農のまちだが、過疎化は容赦なく進む。スケールの大きな「海商」を、精神的なよりどころにしたい、という願いも、わかるだろう。

「毎年八月十五日に『嘉兵衛祭り』があるんですが、

1年8カ月前に船出した高田屋太鼓。気合いいっぱいの練習はど迫力ノ



これも十年つづくともマンネリ化しましてね。顕彰会から何ぞ考えてくれ、いうてきよった。それで、和太鼓を新しい伝統芸能にしよう、となったんですが、創立まで二年かかりましたわ」

研究会代表の砂尾憲治さんは、「長過ぎた陣痛」を振り返る。教職四十年、その間、校長歴は七年といっても、太鼓となれば、小学校の音楽授業で鼓笛隊をつくっただけの、いわばシロウトだ。さて、どうしたか。

「全国各地へ出向いて、演奏を録音したり、ビデオに取めたり、テレビを録画したりで、トコトン勉強させてもらいました。その中から、やっつと、この人しかないところに決めた指導者が、みつかったんです」

愛知県小牧市に住む吉村城太郎さん（四二）。有名な「鬼太鼓（おんこ）座」にいたプロで、ロス五輪のフイギョア・スケートでは、伊藤みどり選手などの振り付けもしたという。

「先生（吉村さん）に承諾していただいたのは去年の一月十八日。それで旗上げ出来たんです。太鼓は大阪の太鼓正（たいこまさ）に頼んで、桶胴と二尺を各一つ、尺五としめを各六つ、買いました。一千万円を超えたけれど、町長が太腹やから、みんな町で持ってくれた。それだけに、こっちも、やらないけませんわなあ」

メンバーは現在、創立時から一人抜けただけの二十四人。三十七歳の男性から小学校六年生の女子まで、いや、ノリにノッている。午後七時、町民センター二階の研修室のドアをあけた途端に、練習のひたむきさが迎え撃つ。

吉村さんの出げいこの日ではない。民俗芸能サークルの広田昌彦さん（三三）が師範代だ。ずらり並んだ大小の太鼓に、だれかが必ず付く。チームプレーだから、だけれども、どのポジションでもこなせるために。

この日の最年少は、小学六年の鎌田奈都子さん。つい先ほど、砂尾さんに案内された近所の寿司屋「春吉」で、おかみの安子さんが「こんな商売をしているので親

心で打つ太鼓の完成を目指し尽力する砂尾さん。「やっとひと山越えたところです、これからが本当の勝負です」と話す



子のコミュニケーションが、ふだんは、なかなかとれませんが、せんでしよう。だから、娘といっしょに太鼓をやり始めたんですが、このごろは、「何してるのん」というて娘に注意されるほどで……」と語っていた、その娘さんである。

「太鼓たたいてると、ストレスも発散できますし、おトウちゃん（ご主人）は、ちゃんとやったら、ええ太鼓買うたろ、いうてくれるけど、つい忙しいと、週二〜三回の練習に出られへんので、なかなか……」

こう話していた母親・安子さんも遅れてかけつけ、いろんな拍子をとって、リズムをたたき出す。

昔から「太鼓もバチの当たりよう」という。たたき方次第で相手の反応もちがってくる、という意味だが、腹の底をゆさぶるようなとどろきの中でも、音は十人十色



どの表情も真剣そのもの

である。しかし、腕で打つより全身で打て、とは頭で理解できても、よほど練習を積まないと体現はむずかしからう。

その点、奈都子さんや中学一年の美少女、二十歳歳の若い女性たちは、インナー・イア（内的聴感）とでもいうか、全身でリズムを生み出す。ボクサーのフットワークのように跳ね、バトントワリングのようにパチを回わす。「踊りなだから腰でたたけ！」という吉村さんの教えそのままに、太鼓との一体感がある。

曲は吉村さんの作曲・振付だ。嘉兵衛の一代をドラマにした司馬遼太郎さんの「菜の花の沖」全六巻を何度も読み返したあと、都志に四日間、泊り込んで仕上げたという。

貧農の六人兄弟の長男として生まれ育った嘉兵衛が、二十二歳で兵庫へ出るまでを描いた「都志川」、嘉兵衛が初めての持ち船とした「辰悦丸（しんえつまる）」の進水を祝う「さみだれ打ち」。そして瀬戸内海を通り、日本海に沿ってエゾ（北海道）をめざした「波濤」、航海安全を祈った「津の島参り」。ついにはクナシリ・エトロフ島への新航路を開き、廻船業の頂点をきわめた「祝祭」をフィナーレとする五部構成である。

「極端に言えば、太鼓はリズムだけですわねえ。それにメロディをつけ、ハーモニーをつくることは、線を面

曲に合わせた練習風景



にすることで。さらに深み、つまり心が入りこめば四次元になる。だけど、今は、やっと一と山越えたというところすわ」

砂尾さんは、「研究会」が「保存会」になるまで先々のことを考えると、これを、どうシステム化するか。つまり、新しい民俗芸能を、いかに伝統として引き継いで行くか、息づまる思いで見守っている。

町の教育長・竹内隆志さんも「短期間でここまで来られたのは、日本一の指導者を得られたからです」というが、吉村さんはプロだ。いつまでも頼りきるわけにもいかない。本当に、この先、どうするか。



高兵衛祭りの際の実演の様子

「地元の伝統芸能に育ってくれば」と語る竹内教育長



吉村さんの、小牧の自宅に電話を入れた。北設楽郡の合宿にいる、と教わって、かけ直すと、若々しく張りのある声が返ってきた。

「八月までは月二回行っていました。私は宿題を出して強制することはしませんでした。いわれた以上のことを、どれだけやれるか、要は自覚と熱意の問題ですからね。ただ、練習を重ねて技術をみがくよりも、高田屋嘉兵衛に対する心、つまり太鼓を打っていく心が、何より肝心です。その心を人に伝えられる、という自信が、人に感動を呼び起こすのですから」

竹内教育長も「吉村先生は、これからの課題として、心でたけ、といわれました。嘉兵衛翁の精神を継承しろ、という先生の教えを、どう根づかせるか…」と、砂尾さんに、すべてを托す。

シロウトは、どこまで行ってもシロウト。それによって町の心を伝え継ぎたい、と語る砂尾さんのねがいは、確実にひろがり、深まっている。この次は、吉村さんの来られる日に出かけるとするか。

■連絡先

〒655-13 兵庫県津名郡五色町志 207
五色町教育委員会
TEL 0799-133-0160 (代)

小説

壺の中

(前編)



玉岡かおる

え・灘本唯人

ぼくが彼女と再会したのは、城山へ登る坂道の桜が咲き競っていた、四月の午後のことだった。

ふうふう言いながら大股に歩いて登った。ちょうど坂を登りつめた桜のアーチの下に、彼女はまるで一体の彫刻のように立っていて、言葉もなくぼくを迎えた。

時が止まっていた。

桜の花も、一片として舞わなかった。輝くような薄い色の花むららが、春の陽の中でじっと呼吸を止めていた。

ぼくは目を細めて彼女を見た。ベネトンの鮮やかなトレーナーにジーンズをはいた恰好は、昔とちっとも変わっていない。少し痩せたような気がしたのは、トレッドマークだった長いストリートヘアをぱっきり切ってしまったせいだろうか。彼女とはずいぶん長く同じ教室に通ったけれど、ショートヘアを見るのはたぶん、これが初めてだった。

「久しぶり」

彼女が言った。二年ぶりだ、とぼくは心の中で答えた。

「やっぱり、中野くんが来てくれると思ってた。予感があったわ。——さあ、どうぞ」

坂を登りつめた平地はちやちや金網で囲ってあって、そこにはつねんと建つ木造の二階建てへと、彼女はぼくを導いた。車止めの大きな鉄柱が打ち込んである門には「M市教育委員会」という立派な銅板が嵌めこまれていたが、新しいのはその銅板だけで、門も扉も建物も、おそろしいくらい古びていた。

「ここはもとの城趾。明治には女学校が建ち、戦

後は県立高校になったんだけど、ご覧の通り手狭なもんで、二十年程前にむこうの山裾に移転したの。そのお下がりをも、こうして教育委員会の庁舎に使ってるのよ」

長い腰板を張った外壁が、風雨に曝されてささくれだっていた。彼女の後について階段を上ると、ぎいと床板が軋んだ。本当に、たいしたしろものだった。四室ばかりが並んだ廊下も、あちこちに継ぎ当ての板が打たれている。彼女はぼくを、文化財課という札のぶら下がった部屋へと案内した。刷りガラスの嵌った板戸はレールから外れて久しいのか、キコキコ、と嫌な音をたてて開いた。

中には、まるで小学校の職員室を思わせる雰囲気、乱雑な机が六つばかり寄せ合わせてあって、いかにも地方公務員然とした、くすんだような男が三人、すわっていた。三人が三人とも、まるでセンスというものないネズミ色のブレザーを着ている。きつとM市の配給品なんだろう。胸ポケットあたりには、M市のマークでも刺繍されているんじゃないだろうか。ぼくが本心にマークを探すような注意深さで彼らを見ていると

「D大からお見えになった、中野先生です」

唐突に「先生」付けで、彼女はぼくを紹介した。ネズミ男たちがじろり、とぼくを見た。机に向かって彼らが何をしているのか、てんで見当がつかなかったが、彼らはひどく熱中しているらしく、愛想の一つも言う暇がなさそうだった。でも、彼女がぼくに入れたついでに彼らにまでコーヒールを出すと、「あ、すまんです」と反応をみせる余裕があった。インスタントコーヒールのべたっとした甘さが、この部屋の雰囲気はびびりだった。



彼女は自分のマグカップを持ったまま窓辺に進んだ。

「今度ね、グラウンドだったところに図書館が建つ。幕で囲んだあのあたり」

立ち上ると、何枚もの小さなガラスの嵌め込まれた窓越しに、聞いたことのない工務店のネーム入りのテントが見えた。たぶん地元の工務店なのだろう、たったひとケタのシンプルな市内局番が書き込まれている。

「鉄筋の基礎を打ち込むのに掘ったのよね、そしてたら出るわ出るわ、得体の知れないかわらけが。慌てて工事をストップして、私たちの出番となった次第」

ゼミ旅行でアイヌモシリに行った時に買った、ユーカラ織りのハチマキを額にしまって、汗を滴らせながら発掘調査に没頭している彼女の姿が目についた。どんな炎天下でも、彼女は男顔負けに作業を続けたものだった。ふっとほくほくはうれしくなった。それは、

「みどり女史が、壺を発掘したらしい。誰か、手伝いに行つてやってくれないか」

ビニール袋に入つた陶片を手に、一木教授が呼びかけた時に感じたものと同じものだった。

彼女——森澤みどりは、ほんの二年前まで、D大・一木研究室の秘蔵っ子ともいうべき助手だった。ポストさえ空けば、いつでも講師に格上げになることが約束された人物で、ほくたち後輩の院生にとっては、たのもしいつ限りの存在だった。その彼女が、突然こんな田舎町の高校教師になった理由を、ほくは知らない。ほくは彼女より三つも年下で、いきなり野に下る決心をしてみました。彼女を引き留めるだけの力も言葉も持たなかったからだ。しかし、彼女が黙々と土を掘り続けていた事実は、わけもなくほくをうれい気分にした。「どうやら、天正以前の備前焼、というところだな」

鑑定の結果、一木教授がそう断定したにもかかわらず、ほくは彼女の助手を買って出た。たとえ週一回ずつとはいえ、いつまでかかるかわからないような地方史にかかずらって、自分の専門外の調査に時間を削られるのはどう考えてもデメリットだったが、あの時のほくにはそうせずにはおられなかった。どうしても、確かめておきたいことが一つ、あったのだ。

でもぼくは、黙ってテントの文字を目を追いながらコーヒを啜っていた。そのうち十二時のサインレンが鳴って、ネズミ男たちはパタパタと席を立った。鳴り終わる頃にはタイムカードを押してガラス戸の外に出ているという段取りのよさで、やっぱよくに、今日が土曜日であることを思い出させた。さっき彼等が机に向かっていたのは、たぶん恰好だけに違いない。「お先です」みどりに投げられた挨拶の後で、またキコキコと、レールをはずれた扉が鳴った。みどりがフツと、溜め息をついた。

その溜め息で、なぜかぼくは救われたような気がした。こんなところで、みどりは一体何をしているんだろう。そんな思いが、ぼくを重苦しく取り籠めていたからだった。少なくともその溜め息は、この部屋の雰囲気のみどりがすっかり同化してはいないという証しに見えた。

ぼくたちは二人きりになっていたのだが、とりたてて話すこともなかった。みどりの方で、研究室の誰彼らの消息を聞いてきたが、それだって、あまり明るいものではなかった。たいていの奴がみどりと同様、研究を断念してそこそこの身の振り方を選び、去っていった。唯一明るい転換をした、木庭先輩については彼女は聞いてこなかったし、今残っているのは、みどりの知らない新参者ばかりだった。中野くんは今どうしているの、と、再びぐん付けにもどってぼくの近況を聞かれたければ、ぼくに至ってはますます面白くない話しかできそうにない。

木庭先輩の声掛かりで、長屋王の邸跡の調査チームに加えてもらったがまるで雑用係にすぎなか

ったこと、論文はなかなか学会発表につながらないことなど、ぼくは半分ぼやきともとれる口調で話した。

「そう、木庭くんの声掛かりで……」

「今じゃ、もと帝国大学の助教授ですから。調査団の中でも主導権を握ってました」

「そう」

みどりはほんの少し、暗い目をした。ぼくは、その木庭先輩が結婚したことを告げた方がいいのかどうか、しばらく迷っていた。そしたら、

「それでは、問題の壺のところに案内するわ」

彼女にうまくかわされてしまっ、言葉を飲みこまざるをえなかった。結婚相手がO大学長の娘であることなども、この際彼女には関係ないかもしれないと思いつくはななかった。

ぼくはみどりの後について、部屋を出た。渡廊下でつながれた小さな建物の錠前をはずして、みどりは中へ進んだ。パチン、と電灯がともると、まっ白なシーツの敷きつめられた床の上に、番号札をつけられた無数の陶片が散らばっていた。うわ、と思わずぼくは声を上げた。うふっ、とみどりは自慢気に笑った。



△作者紹介

昭和31年生。神戸女学院大学卒業。中学校教師を勤めた後、フリーライターに転進。同60年に「ノン」のノンフィクション大賞受賞。同62年「夢喰い魚のブルーグッドバイ」で神戸文学賞受賞。平成1年に同作品を新潮社より上梓。同2年10月、新潮社より「なみだ雲のムーンライト・チアーズ」を上梓予定。現在「SAVVY」で「クォータータイム」を連載中。

ちよつと
ジェラシーな服。



.....After Fashion

一クラス上の極上素材…ベルベット。
ベルベットはパイル織物といわれ、生地表面を起毛している
ので、毛が倒れやすく、倒れると生地の表面が光って見え
ます。細心の注意を払って、毛並が倒れないようにお召し
になることがポイント。たとえば、長時間座ったり、バックを
腕や肩にかけたりすると、毛が戻らなくなります。長時間
ドライブは禁物ですね。また 雨やシミで毛並がくるいがか
ちです。シミがついた時など、こすったりしないで、そのまま早
くニシジマにお出してください。

AFTER
FASHION
NISHIJIMA

本社/神戸市灘区記田町1 078-851-2440 ■大阪支社/06-853-1332
ローブ・ニシジマ山手/078-221-2440 ■ローブ・ニシジマ三宮/078-332-2440
リフォーム・フルフル/078-221-9110 ■ローブ・ニシジマ宝塚/0797-72-0810
ローブ・ニシジマつかしん/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ芦屋/0797-38-3303

コウベ徹底ガイド

1990 神戸&神戸

ハンディタイプA5版変形



神戸のエスプリを徹底ガイド

神戸のガイドブックはたくさんあるけれど、これは神戸が大好きな神戸っ子がつくった手づくりの本。素敵な何かにめぐり逢えそうな神戸の風景が、この一冊にぎっしり詰まっています。

神戸の魅力を全国にアピール

(タウンガイド)
三宮/ポートアイランド/北野/トアロード・大丸前/元町/六甲・
御影・岡本/神戸・兵庫・長田/須磨・舞子・垂水・明石/芦屋・西
宮・甲子園/有馬/六甲/宝塚

好評発売中

500円(税込)